

## 翻訳に関わる問題点・歌の歌詞の場合

### ① 「正確に対応する単語が存在しないから」

例えばドイツ語の *Schwester* は日本語で「姉」または「妹」、日本語の「先生」はドイツ語で *Lehrer, Lehrerin, Dozent, Dozentin, Professor, Professorin* に当たる。従って原文が曖昧にするところを翻訳で無理に決め、原文ではっきりしていることを翻訳で曖昧にしなければならない場合がある。あるいは翻訳の表現が複雑で不自然になる。

### ② 「言語の構造が違うので」

文法構造の違いによって表現も変わる。例えば日本語では人称や主語を曖昧にする表現が多く、ドイツ語では語順が比較的に自由である。また文法によって必然的に主文と副文の順序が変わり、それによって考えの流れも変わる場合がある。

### ③ 「抒情詩だから」

歌の歌詞には抒情詩が多いが、抒情詩には感情表現や比喩が多く、その意味を正確に訳しても理解されない。別の比喩に置き換えるのも簡単ではない。

### ④ 「韻文だから」

①～③の問題をクリアしても韻文の翻訳はまだ韻文になっていない。言葉のリズム、言葉の響き、詩行や節の形式をどう扱うか。ドイツ語から英語に翻訳する場合は強弱のパターンや脚韻の踏み方を同様に再現するが多いが、それによって言葉の選び方に新たな問題が生じ、さらに自由な翻訳になる。日本語にする場合は強弱と脚韻を一般的に再現できないので、韻文であることを翻訳でそもそもどう表すのか。日本語の韻文に使われる形式（七五調など）に置き換えるか。

### ⑤ 「同一のメロディーで歌うから ① 音節数の問題」

④の問題はすべての韻文の翻訳に当てはまるが、歌詞の翻訳では、その目的は歌を翻訳で歌うなら、メロディーとの対応が問題になる。原則的に音節（日本語では「モーラ」という）を同一の数にしなければならない。ドイツ語の文を翻訳すると原則的に音節の数が増える。

*Ich weiß nicht, was soll es bedeuten, dass ich so traurig bin (15)*

どうしてこんなに悲しいのか、私には分からない (24)

従って翻訳ですべての内容を伝えられない。

### ⑥ 「同一のメロディーで歌うから ② 音楽構造から見て」

歌曲には歌詞が先に存在し、作曲家がそれに節付けをする場合が多い。つまり歌のメロディーは原語の調子、切れ目、強調などを反映している。翻訳においては既存のメロディーに（上記の問題をすべてクリアしながら）新しい言葉をつけないといけないので、「言葉のノリが悪い」箇所が出る危険がある。また、ドイツ語の詩を基に作られたメロディーは韻律の強弱を強く反映しているので、そのような対応関係を日本語では再現できない。

ただし有節歌曲の場合には同じメロディーに複数の歌詞が歌われるので、メロディーがある程度パターン化し（つまり個々の言葉というより韻律形式を表現する傾向がある）、その分は翻訳しやすい。あるいは原語で歌われる原曲でも言葉とメロディーの対応が必ずしも理想的でない場合もある（作曲家が1番の歌詞を考えて節付けをする傾向があるので、そのような問題は特に2番以下の歌詞に起こる）。